

令和6年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

(令和6年度採択館用)

団体名	公益財団法人東京都歴史文化財団	
施設名	東京文化会館	
助成期間	5	(年間)
内定額	48,969	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
開館日数		274	326	325	329	329
年間事業本数（※1）	主催事業	27	26	25	30	30
	公演事業	11	11	10	10	10
	（内、本助成対象事業本数）	10	10	10	3	10
	人材養成事業	6	5	5	5	5
	（内、本助成対象事業本数）	2	3	2	2	3
	普及啓発事業	10	10	10	15	15
	（内、本助成対象事業本数）	9	10	9	3	10
	その他 内容： 記入してください					
貸館日数	ホールごとの貸館日数	225	435	518	558	647
	ホール名：大ホール 座席数： 2303	115	211	278	307	322
	ホール名：小ホール 座席数： 649	110	224	240	251	325
	ホール名：記入してください 座席数： 記入してください					
	ホール名：記入してください 座席数： 記入してください					
	ホール名：記入してください 座席数： 記入してください					

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	33,131	41,995	44,934	42,522	48,461
	公演事業	15,864	15,964	16,313	16,000	15,377
	人材養成事業	5,248	6,632	5,171	5,858	4,243
	普及啓発事業	12,019	19,399	23,450	20,664	28,841
	その他 内容： 記入してください					
	貸館事業入場者・参加者数	79,543	169,627	310,313	373,675	376,293
	その他 内容： 記入してください					
	計	112,674	211,622	355,247	416,197	424,754
施設の利用率(%)		54.2%	87.2%	94.7%	100.0%	99.4%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業 本数	公演 回数	入場者・ 参加者数	入場者・ 参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統 芸能	演芸	総合 (※4)	その他
令和 3 年度	主催公演(※1)	11	43	15,964	72.8%		11					
	共催・ 提携公演(※2)	1	4	822	31.0%		1					
	貸館公演(※3)	284	305	170,264	46.1%		282					2
	計	296	352	187,050								
令和 4 年度	主催公演(※1)	10	38	16,313	79.0%		10					
	共催・ 提携公演(※2)	4	44	19,935	47.0%		4					
	貸館公演(※3)	288	372	310,313	56.7%		288					
	計	302	454	346,561								
令和 5 年度	主催公演(※1)	10	33	16,283	67.0%		10					
	共催・ 提携公演(※2)	4	37	21,895	71.0%		4					
	貸館公演(※3)	290	399	373,675	56.7%		290					
	計	304	469	411,853								
令和 6 年度	主催公演(※1)	10	33	15,377	71.6%		10					
	共催・ 提携公演(※2)	4	36	19,567	66.4%		4					
	貸館公演(※3)	302	415	376,293	70.0%		302					
	計	316	484	411,237								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

・ 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数		入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
公-01	舞台芸術創造事業1 歌劇「水車屋の美しい娘」	目標 値	470	85.6%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	80%	入場者数は若干のマイナスとなったものの、評価指標では満足度、初来館者数ともに目標値をクリアし、内容を含め想定された目標を達した。		
		実績 値	434	79.0%	来場者アンケート調査	東京文化会館公演への初来館者割合20%以上	23%			
公-02	舞台芸術創造事業2 IRCAMシネマ「狂った一頁」～ポンピドゥー・センターと歴史的無声映画のコラボレーション～	目標 値	800	72.9%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	87.50%	昼夜2公演を行ったが、入場者数は目標に達しなかった。内容の満足度では高い数値となったことから特定のファン層からの評価が高かった。また初来館者層が多かった理由は映画ファンなど音楽以外の愛好家が多かったためである。		
		実績 値	385	35.0%	来場者アンケート調査	東京文化会館公演への初来館者割合20%以上	22%			
公-03	オペラBOX 『トスカ』	目標 値	500	91.1%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	88%	マスターピースということもあり、初来館者の割合こそ目標に達しなかったが、その他の成果指標は全て目標値を超えたことから想定した成果をえることができた。		
		実績 値	523	95.2%	来場者アンケート調査	東京文化会館公演への初来館者割合10%以上	7%			
公-04	創遊・楽落らいぶ ―音楽家と落語家のコラボレーション―	目標 値	1,900	58.6%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	80%	年間5回公演のうち4公演(昼)公演では全て目標値を上回る実績値であったが、夜の公演のみ目標に届かなかった。評価指数に関しても想定通りとなり目標を達成した。		
		実績 値	1,840	56.7%	来場者アンケート調査	東京文化会館公演への初来館者割合10%以上	10%			
公-05	響の森コンサート	目標 値	3,600	78.2%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	88.00%	年間2回実施。前期の公演は集客に苦戦したが、1月の公演はほぼ満席となった。総じて満足度は高く、成果指標としたリピーター割合も高かったことから定着化が進んでいると考える。		
		実績 値	3,355	72.8%	来場者アンケート調査	当公演入場履歴が3回以内10%以上	75%			
公-06	上野 de クラシック	目標 値	4,800	61.6%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	95%	東京音コン入賞者の実績・経験値を高める機会として実施。満足度は高くリピーターも多かったことから概ね目標は達成したが、集客にムラがあり(楽器等による)平均値が低くなる傾向があった。		
		実績 値	4,145	53.2%	来場者アンケート調査	当公演入場履歴が3回以内10%以上	18%			
公-07	Enjoy Concerts! シアター・デビュー・プログラム ①「木のここと」	目標 値	800	69.0%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	97%	集客、内容の満足度等、全ての実績値が目標を上回った。特に小中学生チケットの実績が110枚となり当公演の目的を達成した。また、子供のみならず一般観客からも好評を得た。		
		実績 値	936	80.6%	来場者アンケート調査	25歳以下の来場者の割合が8%以上	13%			
公-08	Enjoy Concerts! シアター・デビュー・プログラム ②平常×萩原麻未「ロミオとジュリエット」	目標 値	800	69.0%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	91%	集客、内容の満足度等、ほぼ全ての実績値が目標を上回った。中高生以上向けの内容としてミニマムな出演者ながら満足度は総じて高かった。		
		実績 値	870	75.0%	来場者アンケート調査	25歳以下の来場者の割合が8%以上	12%			
公-09	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	目標 値	2,000	77.0%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	96%	最終公演が出演者の疾病により中止となったことで入場者実績値は低くなったが、3回の実績率としては目標を達した。また、特に満足度は高く、低廉な価格で高品位な演奏を聴くことが出来るのは、本助成による効果となっている。 *入場者率実績値は3回目までの実施分にて計算		
		実績 値	1,503	77.1%	来場者アンケート調査	東京文化会館公演への初来館者割合10%以上	13%			
公-10	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	目標 値	1,200	61.6%	来場者アンケートで「大変良い、良い」の上位2段階	内容の満足度80%以上	96%	集客、内容の満足度等、全ての実績値が目標を上回った。特に満足度は高く出演した若手ピアニストがオリジナル楽器を併用したことも想定した満足度となった一因である。		
		実績 値	1,386	71.1%	来場者アンケート調査	当公演入場履歴が3回以内10%以上	32.00%			

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)独創性があり、先導的で国際的な水準の事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)我が国の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意) 東京音楽コンクール入賞者を起用しての普及啓発事業の実施

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業	事業番号①、②、⑦、⑧、⑨＝注目度が高く、創造発信型の国際的な水準の公演であったか。→マスコミ、評論家の反応	事業番号①、②、⑦、⑧、⑨＝WEB(音楽評論家による)、新聞・雑誌等の評価レビューの掲出。 →10件以上	新聞雑誌等の評価レビュー掲載＝11件(延べ)事業番号 ①モーストリークラシック2月号(東条碩夫)、音楽の友3月号(山崎浩太郎) ②音楽の友2月号(伊藤制子) ⑦なし ⑧2025年2月22日北海道新聞(中村公美) ⑨第1回エマール、ピアノ公演、2024年10月毎日クラシックナビ、音楽の友2月号(那須田務)、同(荻谷由喜子)、同(堀内修) 第3回レ・ヴォルク公演、モーストリークラシック2月号(澤谷夏樹)、音楽の友2月号(高山直也)、同(渡辺和)	事業番号⑦を除く設定対象すべての公演で事後評価が掲載された。⑦は演劇的な色合いが強かったためジャンルとして音楽誌面での掲載が難しかったことが一因である。 ⑧は出演・演出の平常氏の出身県である北海道新聞がかなりの紙面を割いて批評を掲載。 ⑨では第1回のエマール氏によるピアノ公演が音楽の友誌上での年間ベスト公演欄で複数の評論家・ライターがベストテンに上げたことにより多くの掲載となった。またレヴォルク三重奏団公演も評価が高かったことが推察される。以上により、独創性があり、先導的で国際的な水準の事業として我が国の実演芸術を牽引する成果となった。		
人材養成事業	1.東京音楽コンクール(人-1・2)…各主催事業等への入賞者等の起用数 2.新進音楽家のキャリアアップ支援(人-3)…東京音楽コンクール入賞者を中心に構成する室内楽グループの結成	1. R6年度目標値:延べ150人以上の起用 2. 国際フェスティバルとの連携、共演の実現	1＝204名(延べ起用者数) ※主催の各公演、アウトリーチ等で起用し、目標比136%を達成し、目標を大きく上回った。 2＝人材養成③でコンクール入賞者によるオーケストラを編成(東京文化会館チェンバーオーケストラ)した他、フランスのレ・ヴォルク音楽祭と連携し、当該コンクール入賞者との共演(公演事業⑨)を実現。また、入賞者を対象とした現代音楽のマスタークラス(人-3)を実現した。	公演事業、人材養成、普及啓発の各事業で満遍なく過去の入賞者を起用し、公演、ワークショップ、アウトリーチ事業を展開した。出演機会の創出により、中長期的視野に立った、若手音楽家の継続した育成という観点で育成型コンクールの特徴を活かし、我が国の音楽会の未来へ貢献していると自負している。 今年度から始まったフェスティバル・ランタンボレルと連携した新進音楽家のキャリアアップ支援(人-3)公演でのマスタークラスは、これまで実施していなかった現代音楽をテーマに若手の多様なチャレンジの機会を創出した。知名度の低い実力派若手音楽家の今後の活動機会の拡大に繋がることが期待される。		
普及啓発事業	1.Workshop Workshop! 国際連携企画(普-4)…ポルトガルの音楽施設、カーザ・ダ・ムジカメンバーを招聘し実施する国際的事業、ワークショップフェスタ(2回実施)での応募者数(WSリーダー育成プログラム) 2.まちなかコンサート(普-3)…実施場所数 3.アウトリーチ・ワークショップ(普-9)…実施校数 4.アウトリーチ・コンサート(普-10)…実施校数	1. 新規で15名以上の応募者 2. 7施設以上/年実施 3. 32校/年実施 4. 22校/年実施	1＝21名 2＝9施設実施/年 (目標比128%) 3＝35校実施/年 (目標比109%) 4＝22校実施/年 (目標比100%)	1＝ワークショップリーダー育成プログラムは、当館のワークショップ事業の持続性の観点から重要な機会として年間を通じて行っているが、当年は21名の新規応募者が参加し、内2名をポルトガルのカーザ・ダ・ムジカに研修生として派遣し、研鑽を行った。これにより2025年から新たなワークショップリーダーとして活動をスタートすることに繋がる。 2＝まちなかコンサートは目標比128%となり、想定より多くの文化施設での事業実施を行った。上野公園内の各文化施設を初め、江戸東京たてもの園でも実施し、不特定多数の国民、インバウンド客に東京音コン入賞者が演奏を披露する機会となった。 3＝アウトリーチワークショップは、1の育成プログラムを経たリーダー(レジデントアーティスト)が都内幼稚園、小学校、延べ32校で実施した、またクリニック事業として小・中学校へ等のワークショップを2校で実施、高校での吹奏楽部クリニックを1校で実施し目標比109%となった。 4＝アウトリーチコンサート…東京音楽コンクール入賞者を都内22校に想定通り派遣、校内での演奏会を実施した。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・音楽監督がプロデュースしたフェスティバル・ランタンボレルは、既存の事業体系に属するシリーズ公演の一部をそれぞれの意義・目的を活かしつつ、フェスティバル期間に集中して行うことで話題性が飛躍的に向上し、マスコミ(新聞、各種音楽雑誌、WEB)で取り上げられる機会が増加した。

評価項目②:国際性

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①海外からの音楽団体の招聘・連携数 ②上記公演、WSでの聴衆の反応(アンケート…来場者アンケートで「大変良い」「良い」の上位2段階)	①2団体以上 ②内容の満足度80%以上	①＝3団体 1.カーザ・ダ・ムジカ(ポルトガル)招聘&連携 2.レ・ヴォルク音楽祭(フランス)招聘&連携 3.IRCAM(フランス)連携 ② 1.(普-04) 97% *目標比121% 2.(公-09) 94% *目標比117% 3.(公-02) 87% *目標比108%	①＝1.WS事業での提携を結び、年2回定期招聘を行っているポルトガルのカーザ・ダ・ムジカによるワークショップ事業及びワークショップリーダー育成プログラムを7月、12月に2回実施。21名の新規応募者がプログラムに参加した。うち2名の選抜された参加者を現地に派遣(2月)し、研鑽を積むことで国際的な人的交流を含め当館のレジデントアーティストとしてWS事業を担い、国民に還元されることが期待される。 2.フェスティヴァル・ランタンボレル(公-9)で連携したレ・ヴォルク音楽祭から弦楽三重奏団(レ・シエクルメンバーによる)を招聘。テーマである現代と古典を対比したプログラムを実施。海外のフェスティバル、実演芸術団体と連携した招聘となり、国際プレゼンスの向上に寄与した。 3.IRCAMシネマとして、同フェスティバル内で公演を行った無声映画「狂った一頁」(音楽付)を実施。パリ・ボンビドゥーセンター内になるIRCAMとの連携第1弾となった。 ②＝1.WS国際連携の内、夏・冬にそれぞれ実施したワークショップ・フェスタで行った全41公演のアンケート集計結果として大変高い満足度となったことから国際交流事業として大きな成果を得た。 2.前述①-2の内容参照。目標比117%と現代音楽を交えたプログラムながら満足度は高かった。 3.前述①-3の内容参照。昼夜2回の公演実施を行ったが、それぞれ75%、100%と夜公演での評価がとりわけ高いことが目を引いた(内容は同一)。これを機にIRCAMとの人的交流や情報交換が行われることになり、国際交流の観点で大きな成果を得た。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・前述(創造性・企画性)の新機軸としてフランスのIRCAMとの連携が始まり、IRCAMシネマとして映像と現代音楽のコラボレーション企画を実施し、音楽を加えた新たな切り口で我が国で作られた無声映画作品の逆輸入が実現した。当事業の実施により、IRCAMとの連携がスタートし、現代音楽分野の別事業での連携、邦人作曲家の派遣などが軌道に乗ったことで、今後、国際性の向上が大きく見込めることとなった。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※貸館での利用者満足度 ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①貸館アンケートの回答で測定 ②都内小中及び特別支援学校への訪問地域数で測定	①貸館主催団体等が利用した結果、80%以上が「満足」と回答 ②アウトリーチ・コンサート、同ワークショップの訪問地域数 20地域(区市町村)以上/年間	①95%(満足と回答、アンケート回答団体(任意)) * 回答数38団体(大ホール)、188団体(小ホール) ②29地域/年間 (昭島、八王子、江東、練馬、足立、板橋、北、町田、豊島、立川、府中、調布、中野、清瀬、台東、荒川、三鷹、大田、羽村、西東京、世田谷、武蔵野、港、文京、新宿、目黒、江戸川、多摩市、あきる野市)	①設問は、・使用申込手続き、・舞台関係の使い勝手、・座席案内等の客対応となっており、建物の構造上の問題を除き、すべての項目で5段階評価で3以下の評価はなかったことから高い満足感を得ている。地域の文化拠点として貸館事業においても各主催者のニーズに即した対応がで来ている。これによりバレエ・オペラ(大ホール)、室内楽等(小ホール)を中心に地域住民を初め全国から来場する聴衆のニーズを高度に満たしている。 ②年間を通じ、都内29地域の幼稚園～高校まで児童生徒対象にアウトリーチワークショップ(クリニックを含む)、同コンサートでレジデントアーティストのワークショップブリーダー及び、東京音コン入賞者(地域の文化資源の一つといえる)を派遣し公演等を行った。目標達成率145%となり、地域の文化拠点として希望がある地域の学校へ児童生徒への鑑賞機会の提供(内13地域は多摩地域)を目的として実施した。これにより、当館が地域を代表する文化拠点としての機能を十分に果たしたと考えている。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・地域の児童施設から実施に関する問い合わせがあるなど認知度向上、広がりが見られた。 ・実施後に送られたアンケートへの記載として以下のエピソードがあった。 →WSに参加した不登校児童が、その後、徐々に登校するようになった。
--

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①公演での鑑賞サポートの種類で測定 ②アウトリーチ公演の実施回数(校数)で測定	①リラックス・パフォーマンス…障害当事者向け鑑賞サポートの種類(5点) ②特別支援学校へのアウトリーチ公演機会の提供…6校	①以下の鑑賞サポート機材を用意。 1.ヒアリングループ 2.字幕タブレット 3.レーザー網膜投影機(レティッサオンハンド) 4.点字、拡大文字、白黒反転曲目リスト 5.イヤーマフ 6.手話通訳者(舞台上、客席内、ホワイエ) 7.読み上げ対応プログラム(WEB上) 8.カームルーム 9.フリーエリア(会場内) ②都立町田の丘、七生、小平、調布の各特別支援学校でオーケストラ公演を実施(4校) また、北、八王子、花畑学園、立川学園(幼稚部)、八王子西、八王子(中学部)、多摩桜の丘学園、墨東、大塚ろう学校城東分教室、村山の各特別支援学校でワークショップ公演を実施(10校) ※延べ14校で実施	①聴覚・視覚障害者等向けのサポートツールを9種類用意し、全て実際の利用があった。また、当助成により、ろう者による舞台上通訳を実施(*客席側に2名(健常者による)のフィーダー通訳者が必要となるなど費用増加が伴う。)することで、ろう者が公演に参画する度合いを深めることに留意、実現した。 ②当助成金交付が決定したことで、想定よりアウトリーチ実施決定校を増加することが可能となった。オーケストラ公演では東響など在京プロオケが8型から10型編成で各校へ訪問し、1時間程度の公演を実施。ストレッチャーに乗るなど重度障害を持つ生徒を含め、全校規模で多くの生徒が鑑賞する機会となった。ワークショップでは、当館のワークショップリーダーが各校を訪問。幼稚部や分教室など希望に即したプログラムで公演を行った。結果トータルで目標比233%と大きな成果を得ることができた。		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・これまでのリラックスパフォーマンス公演で蓄積した障害当事者による各種鑑賞サポートや公演内容のモニタリング結果を基に、台本の作成や鑑賞サポート機材の工夫を重ねることで、当事者が公演に参加しやすい環境づくりすることに結び付いた。ろう通訳、パフォーマーとして舞台上にたった当事者からは、同じ舞台上で出演者とコミュニケーションを取る中で、健常者が簡単な手話を覚えて、積極的にコミュニケーションを取ってくれたことが大変印象的な出来事となった…という感想があった。
・特別支援学校へのオーケストラアウトリーチ公演では、重度障害(ストレッチャー使用)のある多くの生徒が演奏を聴くことが可能となり、生涯で1回になるかもしれない、生演奏のプロオーケストラを聴くことができる貴重かつ大切な機会となった…という教員からの感想があった。
・特別支援へのアウトリーチワークショップでは、重度障害の児童・生徒に向けた対面での実施に加え、オンライン配信ツールを利用し、在宅の生徒にリアルタイム配信を行ったことで学校からは、登校もままならない、重度障害のある生徒にとって貴重な時間となったという感想があった。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点

- (1) 令和6年度の自己評価
- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など

評価項目⑥:運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保)予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	公益財団として予算計画に則った事業計画を行っている。	一層の寄付金、協賛金獲得へ向けた営業を行っている。	予算計画に沿った決算となった。尚、協賛金・寄付金は16,548,000円であった。	協賛金・寄付金は前年とほぼ同規模となり、公益財団として、適正な収支バランスで運営を行った。		
(イ)	(広報・営業力)広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。	SNS、チラシ、広報誌、メールマガジン等による情報発信や各種広告宣伝を行っている。	時代のニーズに応じた広告展開を図る。	現状で例示したツールの他、山手線チャンネル、駅貼りなどの新規ツールを用い、社会共生分野の広告も行った。	公演事業のみならず、社会共生分野での当館の取り組み、アクセシビリティの向上を広告として実施した。		
(ウ)	(他館連携)他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	WS事業で定期的に他施設との連携を行っている。	定例的な連携や協力を継続していく。	豊島、江東(豊洲)でのワークショップ連携の他、国立や町田での連携公演を実施した。	都内区市町村のホールとの連携を数多く図り、地域拠点としての役割を大いに発揮している。		
(エ)	(設置者)円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。	設置者からの派遣職員を含め人材や財源の確保を行っている。	継続していく	継続した	設置者からの派遣職員が常駐したほか、適切な事業運営に必要な経費の一部を設置者より獲得した。		
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督)芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	音楽監督(野平一郎)が配置されている。	継続していく	継続した	音楽監督プロデュースによるフェスティヴァル・ランタンボレルを当該年度から実施し、成果を得た。		
(カ)	(長期的経営)長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。	長期ビジョンに基づき劇場運営等を統括する体制を整えている。	継続していく	継続した	長期ビジョンに準拠した運営統括者を配置し、社会状況の変化に対応しながら単年度ごとにも収支状況を見直し、長期戦略を実践している。		
(キ)	(専門人材の確保)今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	劇場法に則った専門人材の確保、育成を行っている。	継続していく	継続している	職種区分に新たに「舞台制作」「舞台技術」を加え、専門的人材の確保・配置及び能力向上に努めた。		
(ク)	(職制の整理)芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。	長期ビジョン及び中期計画を実現できるよう組織体制を整備し、処務規定等により職務内容、役割分担を定めている。	継続していく	継続した	管理職以下多様な専門職種から構成される組織であることを踏まえ、各員の事務分掌についても整理され明示共有されている。		
(ケ)	(世代間バランス)年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。	長期ビジョンに基づき、人材確保・育成等を行っている。	継続していく	継続している	人材育成方針の見直しを図り、若手職員等の処遇の改善や若手職員を対象を絞った研修等を通して、適切な人材の確保育成に取り組んだ。		
(コ)	(ジェンダーバランス)女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。	女性管理職比率は30%以上となっており、女性係長率は70%である。	バランスを意識しながら継続していく	継続している	「現状」欄のとおり水準に達したが、引き続きジェンダーバランスを意識しながら組織作りに取り組んでいく。		
(サ)	(ワークライフ・バランス)仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	妊娠出産休暇、子どもの看護休暇、介護休暇等、育児休業等の基準が定められており、環境が整っている。	継続していく	継続している	就業規則に定められた各基準に則り、実際に該当の休暇を取得した職員の復帰サポート等にも配慮した。		
(シ)	(コンプライアンス順守)情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。	順守規定を定め、全職員を対象に研修受講を義務付けているほか、情報セキュリティポケットメモを作成し配布している。	継続していく	研修を実施し、情報セキュリティ規定に則り、継続している	全職員を対象に「コンプライアンス・情報セキュリティ研修」及び「コンプライアンス自己点検」を実施した。		
(ス)	(ハラスメント防止対策)職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	順守規定を定め、全職員を対象に研修受講を義務付けているほか、相談窓口も設置している。	継続していく	研修を実施し、規定に則り、継続している	全職員を対象に「人権理解・ハラスメント研修」を実施したほか、フリーランス新法の施行に伴うフリーランスに対するハラスメント対策についても共有した。		
(セ)	(適正な契約事務)アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。	公演等の出演契約契約において、専用の契約書及び約款等を定めるなど基準を定め運用している。	継続していく	財務規程に則り、運用し継続している。	全ての事業において、契約が発生する全ての事業者もしくは個人との間で、定められた契約書を交わし適正に保管している。		

4. 総評

・ 団体の自己評価

1.助成対象事業について
①公演事業
別紙”公演事業の実績記録と自己評価”のとおり。

②人材養成事業
■東京音楽コンクール…弦楽、金管、声楽部門を開催し、426名が応募（最終的に15名が入賞入選）。若手音楽家の発掘に貢献。2次予選以降は公開で2,177名の聴衆が来場。課題は、国際的なコンクールとしての認知度、国外参加者の一層の増加。
■東京音楽コンクール優勝者コンサート…優勝者3名が自身で選んだ曲目を披露。人気楽器の組み合わせとなったため、従来のクラシックファンはもとより、初来場の聴衆も多く見られた。新進演奏家の公演ながら集客も目標達成率が112%となり好調であった。
■新進音楽家キャリアアップ支援…今年度から始まったフェスティバルと連携したマスタークラスは、今まで実現できなかった現代音楽をテーマに若手の多様なチャレンジの機会を創出。知名度が低い実力派若手演奏家の活動機会に繋がるよう、海外との連携を深めていきたい。

③普及啓発事業
■夏休み子ども音楽会…地域の文化拠点として、近隣の小中学校や連携した上野公園内の各文化施設へのチラシ配布等の効果によりチケットは早々に完売し、普及啓発に相応しい成果となった。
■3歳からの楽しいクラシック…近隣の保育園、幼稚園への周知を実施し、多くの来場者を得られた。それにより、地域文化力の向上に繋がった。
■まちなかコンサート…コロナ禍以後、最も多い延べ7,500人を超える入場者数を記録した（参考：R5：6,080人、R4：4,918人）。今年度は以前にも増して外国人観光客の聴衆が多かったことから、我が国の文化力の高さを地域の魅力として高める成果があった。
■ワークショップ…カーザ・ダ・ムジカの来日時（7月、12月）を含め、通年で国際連携を具体化したワークショップを実施。一部WSでは、音コン入賞者も交えたプログラムも実施。アーティスト育成という観点でも継続性を意識し、我が国の文化力の向上に寄与した。
■コンビビアル・プロジェクト…乳幼児から障害者、高齢者等あらゆる人々が音楽活動に参加できるワークショップを実施した他、在京プロオーケストラが都内の特別支援学校を訪問するアウトリーチ公演を実施。また、「リラックス・パフォーマンス」では、各種鑑賞サポート機材の運用を図り、障害の有無に関わらず演奏会等に参加可能となるよう努めるなど、誰もが等しく参加可能な音楽事業を展開するための活動を行うと共に山手線チャンネルなどの交通広告を通じ、不特定多数へ向けた啓蒙活動も展開した。
■東京ネットワーク計画…都内の文化芸術団体や自治体（国立、町田）に若手演奏家を広く紹介する活動を実施。また、若手音楽家育成プログラムを行う4館と共に当館で成果発表となる公演を実施。特に町田では、初の試みとなる0歳児から入場可能な公演を実施し、満席かつ初来館者数が圧倒的に多い公演となるなど、地域課題解決に向けた実験的な取り組みとして成果をあげた。
■Talk&Lesson…フェスティバル・ランタンボレル内での実施。上演する作品の解説を作曲家自身から聴く機会となり、生演奏も一部、取り入れ、満足度の高い取り組みとなった。集客は苦戦したため、周知方法などの工夫などが課題。
■オペラをつくろう！…合唱・演技ワークショップでは、一般公募の小中学生が、舞台上での基礎的なマナーを初め、ソリスト、指揮者、演出家等から直々に指導を受け、その成果をオペラ公演で披露するに至った他、美術系参加ワークショップではプランナーや舞台スタッフの指導を受けながら、ペーパーステンドグラスを作成した（公演時ホワイエで展示）。また、舞台制作ワークショップでは、稽古場での制作補助として生の現場に参加、演出家等から指導を受けるなど、今後、舞台スタッフ等を目指す現役の大学生に対して現場で学ぶ機会を提供し、舞台芸術の継続性を意識した活動を実施。
■アウトリーチ・ワークショップ…【クリニック】箏のクリニックでは、小・中学校の音楽授業でプロによる指導を行い、和楽器への興味・関心を引き出した。吹奏楽クリニックでは高校吹奏楽部で延べ4回に渡る指導を行い、成果発表となる演奏会では講師が演奏に加わった。
【ワークショップ】保育園から中学校まで、特支学校の児童生徒を含む幅広い対象に応じたプログラムを実施。都内で32校（園）を訪問した。また、珍しい楽器を各プログラム内で全員が体験する機会を創ることで音楽への関心を喚起し、未来の聴衆の育成に努めた。
■アウトリーチ・コンサート…応募校が希望する要望を聞き取り実施することで満足度の高い公演となった。担当教諭を対象としたアンケートでは全学校で「満足」「やや満足」の回答を得た（「満足」20校、「やや満足」2校）。特に多摩地区の学校からは、校内で生演奏の鑑賞機会が得られたことへの満足度が高く、当事業の目的を達する成果となった。また、東京音楽コンクール入賞者を中心とした若手演奏家を起用することで、演奏技術のみならずプログラムの組み立て方や子どもたちに向けた効果的なトーク内容など、独立した演奏家に求められるスキルを磨く場となり、人材育成の観点でも成果があった。

2.貸館事業
・質の高い鑑賞機会の提供を実現した。国内外の最高水準の公演の誘致や自主事業の実施により、来場者の満足度が高い公演ラインナップを提供した。また、実演団体等との公演日程調整等を的確・迅速に行い、継続した高い稼働率を実現した。また、施設設備のメンテナンスを万全にするとともに、配信を伴う公演形態への対応も含め確かな技術力とサービスで公演運営をサポートした。
■ブラシド・ドミンゴススペシャルコンサート、英国ロイヤルオペラ、世界バレエフェスティバル、シュツットガルト・バレエ団、東京・春・音楽祭の一連の公演などが開催され、海外の最高水準の舞台鑑賞の場となった。
■大・小ホール共に安定して公演が開催されたが、空き日が生じた際は、利用団体と調整を図り利用に繋げ稼働率の維持・向上に努めた。
■ホール利用団体はリピーターが多いが、初利用団体には、事前打合せを重ねて公演を安全円滑に開催できるようサポートに努めた。

3.アクセシビリティの充実と安全対策の強化
■視覚・聴覚障害者への情報サポートを推進するため、触察模型を作成し、前年度に製作した触知図を含む点字ガイドブックとともに運用を開始するなど、アクセシビリティの向上を図るとともに、多様性や社会共生の観点から、誰でもわかりやすい「やさしい日本語版」の館パンフレットを作成し配布を開始した。また、館内のWi-Fi等ネットワークを活用し、各窓口にタブレットを設置し、遠隔手話通訳サービス等の運用を開始した。（館パンフレットは3月14日より配布、触察模型は3月25日より運用開始）
■非常時に備えるため、やさしい日本語を使用した災害時の案内チラシやサイン旗を作成し、実際に防災訓練で使用をした。

・ 所見

